

## 20世紀における日本の隆盛と凋落、それに対するアメリカの施策と現状

黒田インターナショナル

黒田 毅

産業における低価格における世界市場の制覇は、ジャパンアズナンバーワンという空想を得た。しかし基礎研究と資本力における明確な自国における行政計画は、それを完全に逆転したのである。

これらは現状における新しい技術文明の創出が、すべての現実には新しい判断を有し、産業はこれに参加を必要とされる。

これら先端性は自己の創造性を求めるのである。これらはアメリカにおける大学環境が、その基礎研究への取り組みとともに、未来の創造を有する。

これら自己ビジョンと行動は、真実において新しい世界の創造を与えたのである。

これら先端性は資本と技術におけるコアコンピタンスを有し、産業育成に対して自国産業の正しい国際市場への参加と育成を政治が自己の計画において有することは、正しいのであり、これら産業の安全保障は、他の追随を許さない、自己基準におけるカルテルを世界市場に形成する。

これらは産業の政治における施策が、結果を与えることの正しい証明である。これは国策における産業の育成は、その政治における理解と合意において可能であることを表す。